

あきる野菅生の自然環境保全活動事業に係る 事業の実施内容及び実績に関する報告書

1 地域の課題

あきる野市菅生地区は、トウキョウサンショウウオやオオタカなどが生息している市内でも恵まれた里山環境を有している地域であるが、生活環境の変化などで炭や薪などの利活用がなくなっていることから、山の管理が行き届いていない。また、農地においても高齢化等により、耕作ができていない畑が目立ってきている。

2 モデル事業の概要

本地区の里地・里山の利活用を進め、地域の活性化につなげるため、里山の保全・活用に関する活動及び新しい技術や知見を導入した地域活性化の調査・研究を行い、郷土教育を通じた持続的な利活用を進め、「里山への回帰による森づくり」を実践していくとともに、地域の特産品の開発にも取り組む。

3 マルチステークホルダーの概要（役割分担等）

本事業を推進するため、平成23年7月13日に産（NECフィールドディング株式会社）、学（明星大学）、官（あきる野市）との連携による自然環境保全活動等に関する協定を締結した。

さらに、本事業の具体的な方向性の決定や事業の管理・運営を行うため、産学官と地元町内会、NPO法人、青年会議所の代表者で構成する「あきる野菅生の森づくり協議会」を平成23年8月8日に設置し、事業の推進を図った。このように、産学官が連携するだけでなく地元NPO法人や地元町内会、青年会議所を巻き込んだ活動を行っており、各者の持ち味を活かした運営を行っている。

○ 行政（あきる野市）：協議体の信頼性の確保及び確実な実行

具体的には、あきる野市郷土の恵みの森構想を踏まえた総括的な事業運営への関与、広報あきる野や市ホームページによる事業の周知や各種イベントの募集、構成団体間の連絡調整、協議会の会計としての経理など。

○ 大学（明星大学）：学術的アプローチ

具体的には、里山活性化事業におけるワークショップの進行と取りまとめ、里山の再生に係る技術的な提案と実践（作業）、里山活性化事業における土壌改良の提案と実践、授業の一環（環境基礎ゼミの野外実習）としての里山の管理作業、農業の人材育成講座における農作業と指導者補助（学生）など。

○ 企業（NECフィールドディング株式会社）：人的供給

具体的には、里山活性化事業における里山の再生や昔道の復活に係る継続的な作業、各地でのCSR活動の実践を踏まえた効率的、効果的な作業提案など。

- 地元NPO法人（ふるさとの森づくりセンター）：技術支援及び機動力のある運営
具体的には、NPO法人が持つ多様な主体と連携した事業の運営経験による技術支援や柔軟な事業運営のノウハウの提供、機動力のある森づくりの実施など。
- 地元町内会（菅生町内会）：地元との協調は事業継続の鍵
具体的には、地域の尾根道整備や土地利用計画の策定に係る地元の意見調整や地元理解と合意形成の醸成、これらの実現に向けた人的の動員と継続的な取組の実施など。
- 青年会議所（あきる野青年会議所会議所）：経験と知識の提供
具体的には、青年会議所の持つ経験と知識を活かした森づくりや特産品開発等へのアイデアの提供及び特産品の販路の研究など。

4 実施事業の詳細な内容

① あきる野菅生の森づくり協議会について

○ 協議会の運営

あきる野市郷土の恵みの森構想及びあきる野市郷土の恵みの森づくり基本計画に基づき、菅生地区で取り組む森林の保全・活用及び地域の活性化についての調査・研究並びにこれらの活動及びその担い手の育成などの自然環境保全活動等を推進するため、平成23年8月8日、菅生町内会、明星大学、NECフィールドディング株式会社、あきる野青年会議所、特定非営利活動法人ふるさとの森づくりセンター及びあきる野市を構成員とする「あきる野菅生の森づくり協議会」を設置した。

この協議会では、菅生地区で取り組む里地活性化事業や里山活性化事業の検討を行い、各種事業を実施している。

開催回	年 月 日	内 容
第1回	平成23年 8月8日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議事項 (1) 平成23年度の活動計画及び予算について (2) 農地等の借地について (3) フィールドの管理について (4) 地元説明会について (5) その他
第2回	平成23年 10月7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議事項 (1) 平成23年度予算について (2) 平成23年度事業計画について (3) その他
第3回	平成23年 10月14日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議事項 (1) 平成23年度の活動計画について <ul style="list-style-type: none"> ① カウンセリング体験について ② 現地視察について ③ 人材育成講座について (2) その他

第4回	平成23年 12月13日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項 <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度の活動中間報告について (1) 試験植樹について (2) 人材育成講座について (3) カウンセリング体験について (4) ワークショップについて ・協議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 報告事項についての課題等 (2) 今後の活動について (3) 学生の旅費について (4) バイオトイレの設置について (5) その他
第5回	平成24年 2月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項 <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度の活動中間報告について (1) 人材育成講座について (2) ワークショップについて (3) 環境教育イベントについて (4) カウンセリングについて (5) 予算の執行状況について ・協議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成23年度の振り返りと今後の方向性について (2) 将来ビジョンについて (3) ホームページの作成について (4) その他
第6回	平成24年 5月31日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・協議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成23年度事業報告について (2) 平成23年度決算報告について (3) 平成24年度事業計画(案)について (4) 平成24年度予算(案)について (5) その他
第7回	平成24年 9月 3日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・協議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成24年度事業の実施状況(4月～8月)について (2) シンポジウムの開催について (3) その他
第8回	平成24年 11月 7日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・協議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成24年度における事業等の実施状況について(報告) (2) シンポジウムの開催について (3) その他

○ シンポジウムの開催

全国初となる産学官による自然環境保全活動等の協定を締結するとともに、6団体により設立したあきる野菅生の森づくり協議会により、菅生地域をモデル地区として多様な生物が生息する里地里山の再生と保全、地域の活性化を目的とした森づくりを進めている。

平成23年度から開始したこの活動を広く周知するため、平成24年11月25日(日)、菅生地域内にある「菅生学園 学びの城」において、シンポジウム『森の活用と地域活性化～みんなでつくる未来の菅生～』を開催した。

このシンポジウムを開催するに当たっては、協議会とは別に、シンポジウム準備会を設置し、実施計画の検討や各団体の役割分担、準備作業などを行った。

・シンポジウム準備会の開催

開催回	年月日	内容
第1回	平成24年 9月29日(土)	・ 協議事項 (1) 参加者の概数及び昼食について (2) 基調講演について (3) 懇親会について (4) ポスター・チラシについて (5) その他
第2回	平成24年 10月13日(土)	
第3回	平成24年 11月7日(水)	

・シンポジウムの開催

開催回	年月日	内容
前日準備	平成24年 11月24日(土)	・ 会場の準備・確認 ・ 映像機器の準備 ・ 進行の確認 など
開催日	平成24年 11月25日(日)	《午前の部》 ・ 菅生散策 《午後の部》 ・ 基調講演 ・ 参加団体の紹介など ・ パネルディスカッション ※ 参加者数 120名

※ 事業の実施状況については、別紙「実施状況写真」のとおり

あきる野菅生の森づくり協議会 シンポジウム
『 森の活用と地域活性化 ～みんなでつくる未来の菅生～ 』
実施状況写真〔菅生学園 学びの城 6階講堂、平成24年11月25日（日）〕



スタッフ：全員集合



受付（菅生の散策）



構成団体の紹介



会長挨拶



シンポジウム：会場全景



パネルディスカッション風景

あきる野菅生の森づくり協議会 シンポジウム

森の活用と地域活性化

～みんなで作る未来の菅生～



11/25(日) 10:00～16:00

参加費無料

※申込みは必要ありません。当日、会場にお越しください。

菅生散策会

10:00～12:00 (受付開始 9:30 菅生学園学びの城 駐車場)

シンポジウム

12:45～16:00 (受付開始 12:15 菅生学園学びの城 6階講堂)

基調講演

「あきる野から発信する SATOYAMA 活性化」

榎部健文さん (あきる野菅生の森づくり協議会副会長)

パネルディスカッション

『テーマ:みんなで作る
未来の菅生』

【コーディネーター】吉澤秀治さん あきる野菅生の森づくり協議会会長・
明星大学教授

【パネラー】野口金雄さん 菅生町内会
窪田衣吹さん 明星大学学生(3年生)
榎部健文さん NEC フィールディング株式会社
遠藤隆一さん あきる野青年会議所
浅原俊宏さん NPO 法人ふるさとの森づくりセンター
中沢清さん 西多摩マウンテンバイク友の会

お弁当を500円で
用意しています。

【主催】あきる野菅生の森づくり協議会

【後援】あきる野市、明星大学、NEC フィールディング株式会社、菅生町内会、あきる野青年会議所、
NPO 法人ふるさとの森づくりセンター、学校法人菅生学園、あきる野市観光協会、あきる野商工会

あきる野菅生の森づくり協議会とは？

あきる野市が進めている郷土の恵みの森づくりに取り組むため、平成 23 年 8 月、明星大学、NEC フィールディング株式会社、あきる野市、菅生町内会、あきる野青年会議所、NPO 法人ふるさとの森づくりセンターにより設立しています。協議会の活動には、あきる野市内外にお住まいの 10～70 歳代の幅広い年齢層の方が参加し、菅生地区の豊かな自然を活かした元気な地域づくりを目指しています。

菅生大沢の盛土地を豊かな里山に再生するため、ワークショップ形式による土地利用計画等の話し合い（6 回）、樹木の植樹・草刈りなどの環境整備（5 回）を実施しています。この整備には 100 名以上の方が参加することもあります。また、遊休農地を活用した初心者向けの農業講座や特産品づくりにも取り組んでいます。

活動団体紹介



明星大学は環境・生態学系 1 年生の授業で、菅生の森づくり活動の植樹を行いました。緑地保全ボランティア・クローバーも年間を通して環境教育や援農に取り組んでいます。



あきる野市は市域の 6 割を占める豊かな森林を次世代に残すため、郷土の恵みの森構想に基づく森づくりにより、多様な生物が生息する里地里山の再生と地域の活性化に取り組んでいます。



NEC フィールディングは、IT サポートサービス会社として、お客さま IT システムのライフサイクル、すなわち企画・設計から導入・構築、運用・監視、保守、改善に至るすべてのフェーズをワンストップでサポートし、お客さま IT システムの安心で快適な運用を実現するためのサービスを提供しています。



菅生地区を中心に子ども向けの体験型環境教育活動や里山保全活動の企画・運営を行っています。本協議会の事務局のほか、農業講座や環境整備、森の癒し効果に着目した森さんぽと語り合いなどを企画運営、菅生地区の特産品づくりなどのお手伝いをしています。

西多摩マウンテンバイク友の会



西多摩近隣の丘陵や里山地域でマウンテンバイクに乗っている仲間が集まり、里山の再生、公園や遊歩道の整備、地域の社会福祉活動への協力などを行っている団体です。

あきる野青年会議所



あきる野青年会議所は 20 才から 40 才までの青年によるボランティア活動や地域貢献活動を目的とした団体です。

菅生学園 学びの城



会場

学校法人菅生学園学びの城(あきる野市菅生 1468 番地)

問い合わせ

あきる野市環境経済部環境政策課
【TEL】042-558-8862 (直通)

※このシンポジウムは、東京都新しい公共支援事業の助成を受けて運営しています。

② 里地活性化事業について

○ 人材育成系

森づくりと連携した農業技術の継承や農業者の育成を図り、地域を活性化させるため、野菜を育てながら農業の基礎を学ぶ人材育成講座を実施した。

平成23年度については、11月から翌年3月までの期間で「土づくりの基礎を学び、野菜を育てよう！」を実施しているが、広報あきる野11月1日号に記事を掲載し、全5回、定員20名、参加費1回500円で参加者を募集したところ、23名の応募があった。

また、平成24年度については、4月から7月までの期間で「土づくりの基礎を学び、夏野菜を育てよう！」として、前年度の受講者に新規受講者（広報あきる野4月15日号で募集）を加えて33名で実施した。

さらに、9月から3月までの期間では、これまでの受講者で人材育成講座「土づくりの基礎を学び、野菜を育てよう！」を実施した。

農業講座の講師については、全てを通して、地元菅生町内会在住の野口金雄氏（東京農業大学グリーンアカデミー講師）に依頼し、毎回、座学と実地を行うなど、効果的な指導を行っている。

この講座は、地域を活性化することを目的に、農業者の育成を図っていることから、必要に応じ、月1回の講座に加えて、講座に伴う農作業として、毎週木曜日と土曜日の朝、栽培している野菜に係る草取りや水やり、収穫などの畑の管理も行っており、農作業の全てを経験できるようにプログラムを構成している。

・ 土づくりの基礎を学び、野菜を育てよう！（平成23年度 11月～3月：全5回）

開催回	年月日	内容	参加者数
第1回	平成23年 11月20日(日)	・座学：土づくり・堆肥、肥料の使用について ・実地：苗植え(たまねぎ・ノラボウ菜、アスパラ菜)、 種植え(ほうれん草)	19人
第2回	平成23年 12月11日(日)	・座学：酸性土壌の改良、堆肥づくり、植物開花などを 利用した栽培暦について ・実地：ビニールトンネル作り、玉ねぎの苗植え	21人
第3回	平成24年 1月29日(日)	・実地：落葉だめづくり ・座学：土づくり(堆肥の効用、種類、使用の注意など) フルーツトマトの栽培について	19人
第4回	平成23年 2月12日(日)	・実地：畑が霜でぬかるんでいたため実地は中止した。 ・座学：土づくり(植物質堆肥、栄養堆肥の施し方等)、 ジャガイモの植え方について	15人
第5回	平成23年 3月4日(日)	・実地：播種 ・座学：酸性土壌の見分け方、タネのまき方、コンテナ 栽培について	17人
参加者数の合計（平成23年度：全5回）			91人

・ 土づくりの基礎を学び、夏野菜を育てよう！（平成24年度 4月～7月：全4回）

開催回	年 月 日	内 容	参加者数
第1回	平成24年 4月15日(日)	・座学： 植え付け前の畑の準備、トマト栽培について ・実地： 畑の寒起こし	15人
第2回	平成24年 5月20日(日)	・実地： 畝たて、マルチの仕方、果菜類の植えつけ	29人
第3回	平成24年 6月17日(日)	・座学： 栽培のポイントや土づくり、植付け、枝の仕立て方について ・実地： ナスやキュウリ、トマトの枝の誘導、トマトの芽かき、雑草除去	26人
第4回	平成24年 7月 8日(日)	・座学： コンパニオンプランツ(共栄作物)、ニンジンの栽培のポイントについて ・実地： 込み合った枝や葉の整理、雑草除去	26人
参加者数の合計（平成24年度 前期：全4回）			96人

・ 土づくりの基礎を学び、野菜を育てよう！（平成24年度 9月～3月：全7回）

開催回	年 月 日	内 容	参加者数
第1回	平成24年 9月 2日(日)	・座学： 秋冬野菜の土づくりと種まきの注意点、白菜の播種など ・実地： ニンジンの間引き、野菜の収穫	21人
第2回	平成24年 10月14日(日)	・座学： 野菜の後作と秋・冬作播種・定植、コマツナ、シュンギク、ミズナのポイントについて ・実地： 大根、白菜の間引き、害虫駆除など	21人
第3回	平成24年 11月18日(日)	・座学： 有機質肥料とチンゲンサイ、コールラビの栽培のポイントや土づくり、植付け等の講義 ・実地： ニンジン、コマツナ、大根の収穫、害虫駆除	20人
第4回	平成24年 12月 2日(日)	・座学： 施肥のポイントと、植付けるものに対応して肥料の種類や時期等についての解説 ・実地： ノラボウの苗の畝のシートの張り替え、ニンジンの収穫、チンゲンサイ、ミズナの収穫	20人
第5回	平成25年 1月27日(日)	・座学： 収穫した野菜の保存とジャガイモの植付け方の講義 ・実地： ホウレンソウ、チンゲンサイ、ミズ菜の収穫、農地の土の天地返し	15人
第6回	平成25年 2月17日(日)	・座学： 収穫した野菜の保存についての種類ごとの解説 ・実地： 雑木林で落ち葉掻き、チンゲンサイ、ミズナを収穫	16人

第7回	平成25年 3月17日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・座学: ・ジャガイモの植付け方の講義(裏ワザ) ・実地: ・畑に移動後、ジャガイモの切り方を確認。 ・植付け面を平らにした後、畝を掘り、植付け。 ・周りの耕作地の草取りやキャベツを収穫。 	18人
参加者数の合計(平成24年度 後期: 7回実施)			131人

※ 事業の実施状況については、別紙「実施状況写真」のとおり

○ 特産物系

高齢化や後継者不足等により耕作や手入れがされなくなった農地や雑木林を活用し、菅生地区の気候風土に適した農作物について、流通を意識して生産することにより、地域住民の連帯や経済的な助けとなるよう農産物の特産化に取り組んだ。

将来的には、この取組が都市と農村をつなげ、菅生地区の自然を保護するとともに、地域の活性化につながるものである。

平成23年度においては、生産する品目の検討と本格的な試行栽培への準備を行っており、菅生地区在住で人材育成講座の講師をお願いしている野口金雄氏と品目選定の事前打ち合わせを複数回実施した。野口氏は雑木林の落ち葉堆肥などを利用した自然農法に詳しい方であり、手入れが比較的容易な「ブルーベリー」、付加価値のある「メロン」、里山の環境を活用した「山菜」や「キノコ類」を中心に、野口氏が栽培経験のある品目を特産品の候補として検討した。

さらに、市内で種苗会社を経営する野村正夫氏からは、現在、野村氏が栽培している「フルーツトマト」の栽培技術の指導を受けることができることになったため、フルーツトマトも候補として検討した。

・ 試験栽培の品目(平成23年度)

項目	内容
メロン・トマト	平成24年度から試験栽培を行うため、ビニールハウスを設置した。
キノコ類	菅生若宮子ども体験の森(市有地)から、コナラを切り出し、ほだ木800本を準備し、椎茸の駒打ちを行った。
山菜	菅生周辺の里山から栽培に適したものを採取するための調査を行った。

平成24年度の実施状況としては、次表に掲げる野菜等の試験栽培を行い、地域の方や環境教育イベントの参加者などに試食として提供した。

・ 試験栽培の品目(平成24年度)

品目	内容
メロン・トマト	試験栽培を実施し、イベントなどで試食を行った。
キノコ類	菅生若宮子ども体験の森(市有地)において、椎茸の栽培を実施している。
山菜	ミョウガやコゴミ等を選定し、小規模試験栽培を実施している。
ブルーベリー	遊休農地に植え付けを行った。

また、ワークショップでの話し合いでは、菅生大沢の開発残土処理地の復元計画として、山菜や柑橘類の果樹の生産が提案されており、比較的容易なワラビなどの山菜の生産場所とすることで合意を得た。

なお、特産化の担い手育成としては、平成24年11月3日（土）、4日（日）の2日間の日程でチェーンソーの使用、樹木の伐採を学ぶ「木こりの講座」を実施しており、この参加者により「木こりチーム」が結成され、12月9日（土）と3月9日（土）には、大沢地区で山林の手入れを実施した。今後は、コナラなどの雑木を伐採し、シイタケ栽培のほだ木として活用する。

さらに、人材育成講座の参加者に対しては、今後の特産品の生産への参加を呼び掛けており、あわせて生産体制の整備も進めている。

※ 事業の実施状況については、別紙「実施状況写真」のとおり

人材育成講座「土づくりの基礎を学び、野菜を育てよう！」
実施状況写真



座学（講義の様子）



実地（苗植え・種植え）



実地（落ち葉かき）

農産物の特産化 実施状況写真（野菜）



パイプビニールハウス（トマトなど）



椎茸の試験栽培



各種野菜の試験栽培

農産物の特産化 実施状況写真（山菜）



山菜の栽培（みょうが、ウド、ワラビ）



山菜の栽培（コゴミ）

3 里山活性化事業について

○ ワークショップ（保全活動と育成）について

あきる野市が所有する菅生大沢の開発残土処理地について、地元（菅生町内会）、大学（明星大学）、企業（NECフィールドディング株）、あきる野市、ふるさとの森づくりセンターなどの多方面の意見を取り入れ、豊かな里山へ再生するため、ワークショップ形式で熱心で活発な議論を重ねつつ、土地利用や利活用の検討を進めている。

本地区は、開発残土の処分を行った土地であるため、土壌の栄養素が不足しており、植物の育成に適していないと考えられていたことから、平成23年11月19日（土）には、環境教育イベントとして、NECフィールドディング株式会社の協力により、このような土壌でも生育する樹木として、実験的にアカマツの植栽を行った。

また、土壌の栄養素の状況を数値として正確に把握するため、協議会の会長である明星大学の吉澤秀治教授が隣接する森林土壌とともに本地区の土壌の分析試験を行った。

その結果は、次のとおりであり、含水率が低く、保水力があまりないことが分かった。また、有機物に含まれる炭素（C）含有率（%）と窒素（N）含有率（%）が低く、その比であるC/N比についても9.8と低く、土壌の栄養素が不足している状態であることが分かった。

試料名	風乾試料 含水率（%）	全炭素（%）	全窒素（%）	pH
森林土壌	2.23	2.01	0.11	5.3
残土捨場土壌	1.60	0.49	0.05	5.9

この分析試験の結果を利用して、植栽する樹木等を選定するとともに、土地利用計画を作成する際の参考としている。

平成24年度については、5月のワークショップにおいて、明星大学の新生（1年生）が環境基礎ゼミの野外実習として参加するとともに、NECフィールドディング株式会社の社内にある社会貢献クラブ「竹取物語」も参加するなど、里山の再生に係る維持管理作業については、多方面の参加や協力により進められている。

また、ワークショップにおける意見交換会では、当初から明星大学の緑地環境保全ボランティアサークル「クローバー」やNECフィールドディング株式会社の「竹取物語」のメンバーも参画している。

さらに、このワークショップには、ボランティアで地域の森づくりなどに協力している西多摩マウンテンバイク友の会（西多摩MTB友の会）が参画しているが、西多摩MTB友の会は、ワークショップへの参画のほか、大沢の市有地の草刈りなどの整備や菅生町内会が実施している菅生北尾根・南尾根の尾根道の整備にも協力しており、菅生地区の森づくりの担い手として積極的に活動している。

・平成23年度ワークショップ（平成23年度12月～2月：全3回）

開催回	年月日	内容	参加者数
第1回	平成23年 12月10日(土)	・現地視察(菅生大沢の私有地) ・意見交換(大沢の市有地で、やりたいことやこうなってほしいこと等) など	24人
第2回	平成24年 1月14日(土)	・「あきる野菅生の森づくり協議会」による取組の説明 ・ワークショップ手法についての説明 ・意見交換(大沢の市有地で、やりたいことやこうなってほしいこと等) など	27人
第3回	平成24年 2月25日(土)	・第2回までの意見に基づき、作業方針の方向性を検討	11人
参加者数の合計（平成23年度：全3回）			62人

・平成24年度ワークショップ（平成24年度5月～3月：全4回）

開催回	年月日	内容	参加者数
第1回	平成24年 5月27日(日)	・午前中は3班に分かれ、草刈りと刈った草の集積場所の整備、巻枯らし間伐の作業を行った。午後も引き続き、作業を行った後、宇宙ケヤキや柑橘類の苗を植樹した。 ・今回は、明星大学の環境基礎ゼミの野外実習として、草刈り等の管理作業等に参加した。	111人
第2回	平成24年 7月7日(土)	・「あきる野菅生の森づくり協議会」における、これまでの取組の説明 ・意見交換(大沢の市有地で、やりたいことやこうなってほしいこと等) など	25人
第3回	平成24年 10月13日(土)	・土砂の搬入等が実施されているので、現状の把握。 ・植栽ゾーンの樹種選定等の検討 ・エントランスゾーンのデザインの検討、皮剥ぎしたヒノキの活用について。 ・昔道の整備について	17人
第4回	平成25年 3月9日(土)	・大沢地区の現状確認 ・土地利用の素案説明 ・特産化農産物について ・無煙炭化器による炭づくり	17人
参加者数の合計（平成24年度：4回実施）			170人

※ 事業の実施状況については、別紙「実施状況写真」のとおり

【里山活性化事業】菅生大沢の市有地 緑の再生プロジェクト「第1回ワークショップ」
状況写真〔実施日：平成23年12月10日（土）〕



菅生大沢の市有地 緑の再生プロジェクト「第4回ワークショップ」

「明星大学による環境基礎ゼミ野外実習」

状況写真〔実施日：平成24年5月27日（日）〕



参加者記念撮影



草刈り作業



植樹作業

巻枯らし間伐



菅生沢の市有地 緑の再生プロジェクト「第7回ワークショップ」
状況写真〔実施日：平成25年3月9日（土）〕



現地確認（大沢地区）



現地確認（大沢地区：尾根道へのアプローチ道の検討）



奥の院への昔道の復活



炭づくり（特産化農地）

○ 自然環境教育について

自然環境教育や体験事業を通じて、森づくりや自然環境保全等の担い手を育成するため、各種の環境教育イベントを実施した。

・ 環境教育イベント（平成23年度：全3回）

開催回	年 月 日	内 容	参加者数
第1回	平成23年 11月19日(土)	【アカマツの植栽】 ・菅生大沢の市有地でアカマツの植栽を行った。	92人
第2回	平成24年 2月11日(土)	【里山散策と森づくり体験】 ・里山散策(トウキョウサンショウウオの卵のうの観察、植物の植生の紹介など) (講師:ふるさとの森づくりセンター理事 浅原ゆかり氏) ・森づくり体験(菅生大沢の私有地の草刈り) ※ このイベントに合わせて、西多摩MTB友の会の方が草刈り作業を実施した。	41人
第3回	平成24年 3月11日(土)	【椎茸の駒打ちと里山遊び】 ・椎茸の駒打ち(講師:地元農家 森田波蔵氏) ・里山遊び・工作(ポストカードホルダーづくり) (講師:ふるさとの森づくりセンター理事長 浅原俊宏氏)	21人
参加者数の合計（平成23年度：全3回）			154人

・ 環境教育イベント 里山の学校（平成24年度：全4回）

開催回	年 月 日	内 容	参加者数
第1回	平成24年 8月 5日(日)	【ツリークライミングと森遊び】 ・参加者を3班に分け、交替でツリークライミングの体験と森遊びを行った。森遊びとしては、会場の裏山の竹林で竹を伐採し、その竹を使って水鉄砲を作った。	35人
第2回	平成24年 10月27日(土)	【みんなで楽しく森づくり体験】 ・参加者を2班に分け、長柄の鎌を使って草刈り作業を行った。植栽してあるアカマツよりも草丈が高くなっていたので、参加者は草刈りの重要性が理解できた。	99人
第3回	平成24年 12月16日(日)	【正月の準備 ～餅つきとお飾り作り～】 ・餅つきと正月飾り作りを体験した。初めて杵を持った親子も多く、杵の重さに驚いていた子もいたが、一生懸命に餅つきを体験していた。	66人
第4回	平成25年 3月10日(日)	【椎茸の駒打ちと里山遊び】 ・椎茸の駒打ちを行なった後に、竹を使った箸作りを行った。	13人
参加者数の合計（4回実施）			213人

・環境教育講座 木こり講座（平成24年度：全3回）

開催回	年 月 日	内 容	参加者数
第1回	平成24年 11月 3日(土)	・1日目 チェーンソーの構造や刃の研ぎ方の講義と実習、燃料の補給の仕方、木材を切るときの受け口の作り方などの実習。	7人
	11月 4日(日)	・2日目 間伐の体験と疑問点などの質疑応答、今後の活動について、大沢地区の里山の管理を行なうこととなった。	7人
第2回	平成24年 12月 9日(土)	・大沢地区における山林の手入れ作業	5人
第3回	平成25年 3月 9日(土)	・大沢地区における山林の手入れ作業	5人
参加者数の合計（3回実施）			24人

・環境教育イベント 親子で体験「雑木林の手入れとマウンテンバイク教室」
（平成24年度：全1回）

年 月 日	内 容	参加者数
平成25年 3月20日(土)	・大沢地区における山林の手入れ作業をした後、地区内に整備したミニマウンテンコースで教室を行った。	9人

参加者数の合計（平成23年度：1事業、3回実施）	154人
参加者数の合計（平成24年度：3事業、8回実施）	246人
参加者数の総合計（4事業、11回実施）	400人

※ 事業の実施状況については、別紙「実施状況写真」のとおり

環境教育プログラム「アカマツの植樹」
状況写真〔実施日：平成23年11月19日（土）〕



環境教育プログラム「里山散策と草刈り作業」
状況写真〔実施日：平成24年2月11日（土）〕



環境教育プログラム「椎茸の駒打ちと里山遊び」
状況写真〔実施日：平成24年3月11日（日）〕



環境教育イベント 「里山の学校」
第1回「ツリークライミングと森遊び」
状況写真〔実施日：平成24年8月5日（日）〕



環境教育イベント 「里山の学校」
第2回「鎌の使い方、草刈り、山遊び」
状況写真〔実施日：平成24年10月27日（土）〕



NECフィールドイング株式会社による草刈作業



参加者による草刈作業



山遊び

（西多摩MTB友の会によるマウンテンバイクの体験）

環境教育イベント 「里山の学校」
第3回「餅つきとしめ飾りづくり」
状況写真〔実施日：平成24年12月16日（土）〕



餅つき体験(鏡餅づくり・試食)



しめ飾りづくり



里山遊び(輪投げなど)

環境教育イベント「里山の学校」
第4回「椎茸の駒打ちと里山遊び」
状況写真〔実施日：平成25年3月10日（日）〕



環境教育講座「木こりの講座」
状況写真〔実施日：平成24年11月3日（土）、4日（日）〕

【1日目】



講義の様子



ソーチェーンの目立て（刃の研磨）



作業体験の様子（切断、受け口）



【2日目】



（受け口作業）



間伐体験の様子（伐倒）



（木回し作業）



本日の作業確認、振り返り

親子で体験「雑木林の手入れとマウンテンバイク教室」
状況写真〔実施日：平成25年3月20日（水・祝）〕



始まりの会



雑木林の手入れ作業



マウンテンバイク教室

○ 癒しの森づくり(森林セラピーの場作りと体験) について

森の癒し効果に注目し、体と心を健康にする「森のさんぽと語りあい」を実施した。この事業は、菅生地区の豊かな自然を使って歩いて心をほぐした後、プロのカウンセラーと一緒に、森で湧き上がった想いを気軽に語り合うものであり、森で癒され、ゆっくり自分と向き合う時間を持つことにより、体と心の環境も不思議とよくなる感覚を体験するものである。

・ 森のさんぽと語りあい (平成23年度：全6回)

開催回	年 月 日	内 容	参加者数
第1回	平成23年 11月23日(祝)	菅生若宮子ども体験の森において、里山の自然を五感で感じながら散策した後、菅生交流会館に移動し、里山の自然の中で感じたことなどを語り合うカウンセリングを行う。 ※ 第5回の事業については、環境教育イベントと同日開催とし、イベントの参加者のうち、希望者がカウンセリングを体験した。	6人
第2回	12月4日(日)		3人
第3回	平成24年 1月15日(日)		4人
第4回	2月19日(日)		8人
第5回	3月11日(日)		9人
第6回	3月25日(日)		4人
参加者数の合計 (平成23年度：全6回)			34人

・ 森のさんぽと語りあい (平成24年度：全12回)

開催回	年 月 日	内 容	参加者数
第1回	平成24年 5月20日(日)	菅生若宮子ども体験の森において、里山の自然を五感で感じながら散策した後、菅生交流会館に移動し、里山の自然の中で感じたことなどを語り合うカウンセリングを行う。 ※第6回は、台風により中止した。	9人
第2回	6月17日(日)		2人
第3回	7月22日(日)		4人
第4回	8月12日(日)		3人
第5回	9月 9日(日)		5人
第6回	9月30日(日)		未実施
第7回	10月14日(日)		6人
第8回	11月18日(日)		4人
第9回	12月9日(日)		2人
第10回	平成25年 1月13日(日)	4人	
第11回	2月 3日(日)	5人	
第12回	3月 3日(日)	4人	
参加者数の合計 (平成24年度：12回実施)			48人

※ 事業の実施状況については、別紙「実施状況写真」のとおり

カウンセリング 実施状況写真



森の散策の様子



お気に入りの木を見つけるワークの様子



カウンセリングの様子

5 事業実施上の課題

① マンパワーの確保

本協議会において、里地活性化事業として取り組んでいる農作物の特産化に係る野菜等の肥培管理、里山活性化事業として取り組んでいるワークショップで検討した大沢地区の利活用計画に基づく施設整備、山林の手入れや草刈りなどの維持管理作業については、継続的な取組が必要である。

また、このような取組を進めている菅生地区において、様々な自然環境教育イベントを実施することにより、生物多様性の保全の必要性や森の魅力を発信するなど、市民や参加者などに森づくりに対する理解を広めることも必要である。

このような取組を継続的に進めていくためには、森づくり活動などに継続的に参加できる人（マンパワー）の確保が極めて重要である。

② 活動資金の確保

平成23年度から平成24年度においては、「東京都新しい公共支援事業交付金」を受けて事業を実施してきたが、里地や里山の活性化に係る様々な活動を継続して実施していくためには、その活動資金を確保することが必要である。

将来的には、現在、取り組んでいる農業の人材育成講座による農業生産者の育成と連携した特産化農産物の生産・販売により、収益事業を計画しているが、農業生産に係る経費を賄うまでになるには、数年の期間を要すると考えている。

このため、このような収益事業を軌道に乗せるまでの期間については、補助金等の支援を受けることが必要である。

③ コーディネーターの育成

様々な主体が協働し、活動を行っていくためには、役割分担により、それぞれが得意とする分野で、それぞれが主体的に取組を進めていくことが必要であるが、各団体の特性を踏まえた上で、全体の活動をコーディネートすることができる人材の確保が必要である。

現在は、主に、協議会の構成団体である「NPO法人ふるさとの森づくりセンター」の代表がその役割を担い、各種事業を進めており、それぞれの団体は、自らの役割を踏まえた上で、各団体のリーダーが中心となって活動に取り組んでいる。

今後、全体の事業が多岐にわたるとともに、それぞれの事業の活動が充実してきている状況の中、次世代のコーディネーターを育成していくことが急務と考えている。

6 モデルとして他のNPO・行政等に紹介する仕組み

① 西多摩MTB友の会については、本協議会の取組に参加する前、「NPO法人ふるさとの森づくりセンター」のコーディネートにより、市内にある東京都立羽村草花丘陵自然公園の整備に取り組んでおり、その人的なつながりから、本協議会の森づくり活動にも参加している。

大沢地区の利活用を検討しているワークショップに参画し、本地区の森林整備や草刈りなどにも積極的に参加しているが、このような協議会の取組への参加に留まらず、菅生町内会が実施している菅生北尾根・南尾根の尾根道の整備に参加するなど、菅生地区の森づくりの担い手として積極的に活動している。

また、菅生町内会のお祭りに参加し、お神輿を担いだり、一斉清掃に参加するなど、地域の行事にも積極的に参加しており、地域社会に溶け込み、様々な場面で活動することにより、地域の活性化にも寄与している。

このような活動を踏まえ、大沢地区の利活用計画を検討するワークショップにおいて、上部の平地にマウンテンバイクのコースを整備することが計画された。これにより、平成25年3月には、本地区にミニコースを整備したことから、西多摩MTB友の会の講師により、環境教育イベントの一環として、親子で体験「雑木林の手入れとマウンテンバイク教室」を実施した。

マウンテンバイクのコースを整備することにより、森林の維持管理や整備作業、尾根道、昔道の草刈りなどを実施した後は、専用のコースで練習を行い、楽しみながら上達することができた。参加者は、森づくりに係る作業とともにマウンテンバイクコースを走ることができるため、本地区で活動する動機付けや継続的な参加者の確保につながっていると考えている。

森づくりに関する様々な作業に取り組んでいくには、マンパワーの確保が非常に重要であることから、特に、継続的に事業を実施していくためには、このような取組により、森づくり活動にメリットを付加することで参加を促すことができると考えている。

さらに、現在では、西多摩MTB友の会の参加者のつながりから、自転車のパーツメーカーからも森づくり活動への参加者が得られている。

- ② 菅生地区の農地についても、他の地区と同様、所有者の高齢化等により、耕作ができていない畑が目立ってきている。このような農地を活用し、地域の特産品となる農作物を生産することにより、地域における雇用の創出と収入の確保を図り、地域の活性化につなげていきたいと考えている。

協議会では、人材育成講座として「土づくりの基礎を学び、野菜を育てよう！」という農業者の育成を図るための講座を実施している。この講座は、農業者を育成するという目的で実施しているため、通常、行われている講座のように、同一参加者が継続して受講することを制限することはなく、参加者の意向を踏まえつつ継続して受講していただくことを基本としている。

また、月1回の講座に加え、希望者には、草取りや水やり、収穫などの日常の畑の管理を行うなど、農作業の全てを経験できるようにプログラムを工夫している。

さらに、収穫した野菜などは、受講者が全て持ち帰り、自分でつくったものを自分で食べることで、収穫の喜びを体験するとともに、家族と分かち合うことができるものである。

- ③ 菅生地区の山林についても、他の地区と同様、間伐や下刈りなどの作業が行われず、管理が行き届いていない状態である。このような山林を適切に管理するためには、その担い手となる人材を育成する必要がある。

あきる野市には、様々な部門で専門知識がある「森林レンジャーあきる野」が活動しており、森林整備の経験のある森林レンジャーがいることから、森林レンジャーを講師として、主に、チェーンソーの扱い方などを習得する「木こり講座」を実施した。2日間の短い日程にもかかわらず、受講者は熱心に講義を受け、実際に間伐を体験するなど、充実した時間を過ごしていた。

講座の参加者には、継続して山林の手入れをお手伝いしていただけるようお願いし、その後も、フォローアップのために山林の手入れ作業を実施するなど、技術レベルの向上を図るための取組を行っている。

現在、「木こり講座」の受講者は、「木こりチーム」を結成し、そのリーダーが協議会やメンバーとの連絡調整、活動の日程調整や活動内容のとりまとめなどを自主的に行い、主体的に活動ができる体制が組まれている。

7 平成25年度以降の予定

① あきる野菅生の森づくり協議会について

協議会の運営については、これまで通り必要に応じて開催し、1年間の活動計画や予算を決定するとともに、菅生地区で取り組む里地活性化事業や里山活性化事業の検討を行う。

② 里地活性化事業について

○ 人材育成講座について

・ 里地管理の人材育成講座

本講座は、菅生地区の遊休農地を活用して実施している人気の高い講座である。菅生地区在住の野口金雄氏を講師に、受講者が30名以上参加し、その他の作業日にも常時10名程が参加している。

本講座については、特産化農産物の生産の担い手の育成も視野に入れており、平成25年度も継続し、これまでの受講者を基本として、毎月1回の講座と定期的な農地作業を実施する。

・ 里山管理（椎茸栽培）の人材育成講座（木こりの講座）

平成24年度は、森林レンジャーあきる野を講師に、チェーンソーの取扱いや樹木の伐採方法を学んでいるが、その後も「木こりチーム」を結成して森林管理の活動をしている。

このため、このチームの活動の場として、主に、菅生の大沢地区や若宮地区などの雑木林において、特産化農産物として椎茸の原木栽培を進めていく。

ただし、平成25年度においても、更なる技術レベルの向上を目指し、講座形式による山林の手入れ作業を実施する。

○ 特産農産物の生産

平成23年度から菅生地区の豊かな雑木林と遊休農地を活かして特産化農産物の生産を試行している。平成24年度は、地域の方の指導により、フルーツトマトや椎茸、山菜を栽培している。

トマトについては、環境教育イベントの参加者に提供して試食をしていただき好評を得ている。また、菅生地区における本協議会の取組を地域の方に知っていただくため、地域内の各戸に生産したトマトを配布しており、これにより、協議会の活動に理解を深めるとともに、地域の繋がりを強めることができている。

平成25年度についても、これらの作物を中心に継続して生産を続け、人材育成講座の受講者を含め、商品化に向けた栽培者の養成を進めるなど、生産体制を整備していく。

特産品づくりには長い年月がかかるが、将来的には生産から流通までを手掛けることにより、工程ごとに分業して様々な雇用を創出し、子育て世代や高齢者、障がい者などと一体となった地域の取組としていくことが目標である。

③ 里山活性化事業について

○ ワークショップについて

あきる野市が所有する大沢地区の開発残土処分地を里山に再生するため、ワークショップ方式で多様な意見を取り入れながら検討を進めており、これまで7回のワークショップを実施している。

現在は、大沢地区をいくつかの区域に分け、特色を持たせた利活用を進めていくため、区域ごとの整備の進め方を検討している。

その中で、高齢者でも上れる車道の整備と雑木林の間を抜ける散策路の整備の両方を行い、多様な世代が集い、体力に応じた楽しみ方ができるよう計画を進めている。

また、乳幼児がのびのびと自然の中で遊べる場所が少なくなっている現在、大沢地区にこうした区域を設け、定期的に「(仮称)遊びのひろば」などを開催することで、子どもが自然に触れる機会をつくるとともに、子育て世代が仲間をつくれる場として活用する計画も話し合われている。

○ 環境整備について

区域内の草刈りや山林の手入れなどについては、大沢地区の定期的な維持管理や整備を協議会関係者で実施する。人の手では難しい作業については、地元土木業者の協力により重機を利用した整備を行う。

里山管理の担い手となっている協議会の構成団体や西多摩MTB友の会などの協力者の活動は、高齢化が進み、作業者が少なくなった菅生地区の大きな助けとなっている。

また、直接、協議会が取り組んでいる整備活動とは直接的な関係はないが、西多摩MTB友の会のメンバーなどは、菅生地区での祭りや清掃活動へも積極的に参加し、人手の少なくなった地域に活力を与えている。

○ 里山に親しむ自然環境教育について

主に、あきる野市に在住する方を対象として、平成23年度に実施した森との新しい関わりを体験する「ツリークライミング体験イベント」を実施する。ツリークライミングは、小学生から高齢者まで、障がいのある方も手軽に木登りを楽しむことができ、幅広い方に森遊び体験を提供できるものである。

また、同様に、「マウンテンバイク体験教室」も実施する。

このようなイベントについては、豊かな自然の中で、普段、体験できない活動を行うものであり、菅生地区に出向き、地域の自然に関心を持ってもらうとともに、森づくり活動に参加するきっかけにもなると考えている。